

旭川市報道依頼

各報道機関 様

KJ00213473

2024年1月29日

発信課	社会教育部文化振興課
担当者	小川 大介
連絡先	電 話 25-7558
	F A X 25-7558
	E-mail bunkashinko@city.asahikawa.lg.jp

分 類	イベント・行事 <input checked="" type="checkbox"/> 募集 <input type="checkbox"/> 契約・入札 <input type="checkbox"/> 会議・説明会 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/>
日 程	令和6年2月3日 9時00分 ~ 令和6年6月2日 17時00分
発表項目 (行事名)	第3回企画展 「井上靖人と文学14—記者から作家へ」展
概 要 (趣旨・日時・ 場所・内容等を 記入すること。)	<p>期 間 令和6年2月3日(土)から令和6年6月2日(日)まで</p> <p>場 所 井上靖記念館(旭川市春光5条7丁目)展示室</p> <p>休館日 月曜日</p> <p>開館時間 午前9時から午後5時まで(入館は4時30分まで)</p> <p>展示内容 井上靖記念館は今年で開館30年を迎えました。改めて井上文学の原点を見つめ直す良い機会であると捉え、井上靖が小説家として世に出た芥川賞受賞に焦点を当て、受賞作の「闘牛」と、同時に候補作となった「猟銃」の二作品中心に、「創作活動の上では、この時期が私の青春」と井上本人が語る時期を紹介します。</p> <p>また、「終戦前後日記」を取り上げ、記者としての仕事の傍ら文学への熱情を絶やさなかった日々を探ります。</p> <p>芥川賞受賞作品「闘牛」芥川賞候補作品「猟銃」の直筆原稿や寄贈された写真アルバムの中から当時の写真も多数展示。</p>
添付資料	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
報道(取材)に当たってのお願い	<p>その他詳細については、井上靖記念館にお問合せください。</p> <p>電話 51-1188 FAX 52-1740</p> <p>E-mail: inoue_yasushi@abs-tomonokai.jp</p> <p>担当 上田</p>
備 考	

令和5年度 第3回企画展



昭和25年2月 芥川賞受賞
左 井上靖 右 文藝春秋新社 佐佐木茂索社長



『闘牛』
発行：昭和25年3月 令和6年
発行所：文藝春秋新社

人と文学 14 — 記者から作家へ

井上靖記念館開館30年記念

残された写真と日記で綴る

2月3日(土) ▶ 6月2日(日)

二十六年五月、私は十一年から十五年間にわたって勤めた毎日新聞社を退き、同社社友となった。作家として一本立ちすることになったわけだが、私はすでに四十四歳であった。そして、それからの数年間が、私の生涯で最も多忙を極めた時期であった。人生的年齢はすでに初老期に入っていたが、作家としては仕事のスタートについたばかりで、作家的年齢というものがあるとすれば、それは青春期であった。

「過ぎ去りし日々」

指定管理者 NPO 法人旭川文学資料友の会

井上靖記念館

〒070-0875

北海道旭川市春光5条7丁目

TEL 0166-51-1188 / FAX 0166-52-1740

共催 井上靖記念文化財団

休館日 毎週月曜日

ただし月曜日が祝日の場合は翌日

開館時間 午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

<http://inoue.abs-tomonokai.jp>

観覧料	井上靖記念館単独券			彫刻美術館共通券	
	個人	団体	パスポート	個人	パスポート
一般	300円	240円	600円	600円	1200円
高校生	150円	120円	300円	350円	700円
中学生以下	無料				



大阪毎日新聞社時代



1940(昭和 15)年から 1945(昭和 20)年に書かれた日記

写真提供:井上靖記念文化財団

井上靖記念館開館 30 年記念

井上靖 人と文学 14 —記者から作家へ

本展では、「生涯で最も忙しい、最も緊張した年であった」と語られる、芥川賞受賞に焦点を当て、井上文学の原点を探ります。

井上靖自身は「私は全く作りごとの、楽しく、贅沢な感じのする作品を書きかけた」（「過ぎ去りし日々」）と語っています。

さらに、井上靖記念文化財団発行の『伝書鳩』第23号、第24号に掲載された「終戦前後日記」[1](#)、[2](#)の中から、新聞社での仕事と並行して、読書や創作に取り組んでいた日々を紹介します。



昭和 24 年 自宅書斎で

いま振り返ってみると、自分の代表的短篇と言えるようなものの多くが、この時期の所産である。当時、自分では娯楽雑誌と文芸雑誌に書くものを書き分けているつもりになっていたが、それもいま振り返ってみると、そうした区別は感じられない。むしろ娯楽雑誌に書いた短篇の方に、短篇としての生命を持っているものが多いくらいである。

「過ぎ去りし日々」

開催期間 令和 6 年 2 月 3 日(土)～令和 6 年 6 月 2 日(日)
 午前 9 時～午後 5 時(入館は午後 4 時 30 分まで)

休館日 毎週月曜日
 ただし月曜日が祝日の場合は翌日

会場 井上靖記念館展示室

観覧料 常設展示観覧料に含む
 (一般 300 円 高校生 150 円 中学生以下 無料)

